



# 令和元年度の実績に係る キャンパス経営力評価ヒアリング

## 米沢キャンパス

米沢キャンパス長 中島健介

## 年度目標① キャンパス運営に関する取り組み

---

- (1) 人件費の戦略的活用によりキャンパス長経費1千万円を確保し、施設マネジメントを強化
- (2) 私費外国人留学生の定員化等による入学者増(16名→25名)

### 【達成状況】

- (1) キャンパス長経費(目標1千万円)による構内環境整備
  - ✓データサイエンス教育用施設整備
  - ✓構内駐車場整備
  - ✓新設学生寮(白揚寮)構内道路整備
- (2) 私費外国人留学生定員化(16名), 留学生向けOC実施  
留学生志願者41名→52名  
入学者12(22)名

## 年度目標① キャンパス運営に関する取り組み

### (1) キャンパス長経費(目標1千万円)による構内環境整備



データサイエンス教育用施設整備  
情報基盤センター  
アクティブラーニングスペース



新設学生寮(白揚寮)構内道路整備

## 年度目標② 学生支援に関する取り組み

---

- (1) 最大のST比に対応した学生情報集中管理と相談体制の確立と学部対応を要する学生数を低減(35名→25名)
- (2) 留学生の修学・キャリア教育・就職支援の連働による国内就職者増(6名→10名)

### 【達成状況】

- (1) 相談記録シートの活用により教員・学科対応情報を学部を集約し、学生相談室カンファレンスを開催して即応する体制を整備。学部対応学生数30名
- (2) 留学生就職促進プログラム推進室において、採用希望企業とのマッチング、在留資格の変更等きめ細かくフォローした結果、国内就職者が12名に増加

## 年度目標③ 教育プログラムに関する取り組み

---

- (1) 卓越大学院の採択
- (2) 工学教育への6年一貫制導入を見据えた(3+3)教育体制の検討
- (3) アントレプレナー教育の促進(受講者数600名, 新規事業化支援6件)

### 【達成状況】

- (1) 入学定員管理(超過率<5%)の未達成により採択に至らず
- (2) 令和3年度大学院改組での実施項目を決定
  - ✓優秀学部生の大学院科目の履修拡大 → 留学促進
  - ✓メジャー・マイナー制の導入 → 深い専門性+幅広い素養
  - ✓英語可科目の拡充 → 留学生受入拡大・国際化対応
- (3) EDGE-NEXTプログラム 受講者935名, 学生起業1件

# 年度目標③ 教育プログラムに関する取り組み

## ◇山形大学大学院理工学研究科(工学系)

### 改組における課題

- ・理学・工学・医学からなる各分野が連携し、社会や産業の持続的発展に資する**イノベーションを創出する人材を育成**する仕組みの構築
- ・平成29年度の工学部の学部改組に対応した博士前期課程の構築 ①将来の少子化を見据え、8学科を6学科へ ②建築・デザイン学科を設立 **年次進行で令和3年度に博士前期課程に入学予定**

### H29年度学部改組前

学部	
<b>工学部</b>	(570)
昼間コース	(570)
機能高分子工学科	110
物質化学工学科	75
バイオ化学工学科	60
応用生命システム工学科	60
情報科学科	75
電気電子工学科	75
機械システム工学科	115
<b>夜間主コース</b>	(50)
システム創成工学科	50

→ 平成29年度改組

### 現状

有機材料システム研究科 有機材料システム専攻	(65)
<b>理工学研究科(工学系)</b>	(211)
物質化学工学専攻	38
バイオ化学工学専攻	28
応用生命システム工学専攻	23
情報科学専攻	28
電気電子工学専攻	34
機械システム工学専攻	50
ものづくり技術経営学専攻	10

### 大学院博士前期課程

令和3年度改組

### 改組後

有機材料システム研究科 有機材料システム専攻	(98)
<b>理工学研究科(工学系)</b>	(204)
化学・バイオ工学専攻	67
情報・エレクトロニクス専攻	62
機械システム工学専攻	63
建築・デザイン・マネジメント専攻	12

### イノベーション創出人材育成のための施策

- ①高度な人間力と知の総合的な推進力の育成
  - ・基盤教育科目/基盤専門科目の設置
  - ・高度専門科目の整備
  - ・メジャー・マイナー制の導入 (IT人材の育成)
- ②学生の多様化に対応するための柔軟な教育システム
  - ・学部学生の大学院科目履修の促進
  - ・講義の英語対応

## 年度目標④ 研究活動・社会連携に関する取組み

---

- (1) 研究チームの組織化を促進し、企業との大型共同研究、コンソーシアム拡充により共同研究費5%増を目指す
- (2) 有機エレクトロニクス分野の研究とYU-COE(S)拠点化を柱に、TOP10%論文の増加(212報→230報)

### 【達成状況】

- (1) 共同研究件数 456件(対前年度33件増)
  - ✓ 共同研究経費 8億3百万円(対前年度△1.7%)
  - ✓ 有機材料システム分野の事業化フェーズへの移行
  - ✓ 大型コンソーシアム運営の加速(YU-IJC, YU-FLEC, YU-FIC, やわらか3D共創)
  - ✓ 包括共同研究契約 1件増(三菱ケミカル)
- (2) TOP10%論文の大幅増(212報→272報)

## 年度目標④ 研究活動・社会連携に関する取組み

### 大型コンソーシアム運営の加速

YU-IJC	20社	87,821千円
YU-FLEC	15社	70,915千円
YU-FIC	15社	31,458千円
やわらか3D共創C	23社	34,130千円

### やわらか3D共創コンソーシアム概念(案)

Soft 3D Co-creation Consortium

